

会 議 録

1 会議名

令和5年度 第1回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 協議事項（公開）

・地域活性化の方向性について

(2) 自主的審議事項（公開）

・旧高土スポーツ広場（旧高土中学校跡地）の活用策について

○意見書の内容について

3 開催日時

令和5年4月20日（木）午後6時30分から午後8時10分まで

4 開催場所

高土地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：青木正紘（会長）、上野秀平、玄蕃郁子、高橋清司（副会長）田中利夫、
塚田春枝、樋口里美 日向こずえ（副会長）、松山公昭（欠席2名）

・事務局：中部まちづくりセンター 小林所長、井守副所長、渡邊係長、山崎主事

8 発言の内容（要旨）

【山崎主事】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青木会長】

- ・挨拶

【山崎主事】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【青木会長】

- ・会議録の確認者：松山委員

次第2 議題「(1) 協議事項」の「地域活性化の方向性について」に入る。事務局から説明を求める。

【山崎主事】

- ・資料 1-1・1-2 に基づき説明

【青木会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

(発言なし)

意見のある委員の発言を求める。

【松山委員】

私はやはり人材の育成が大事だと思う。構成要素の中に「若い人の活動を地域ぐるみで支援する」とあるが、これはあまり具体的に思い浮かばない。

【青木会長】

確かに地域の団体においても、なかなか代替わりが上手くいかないと感じることがある。その辺から始めていく必要があるようにも思う。

【玄蕃委員】

実際にいろんな団体が活動していることは事実である。若い人もPTA活動やルミネの活動をしていて、飯田町内では50代前後の若い人が役員になっている。

高土は、祭りやイベントとなれば、子どもから大人までが参加する地域である。夏は高土まつり、冬はルミネで、いろんな団体が協力しながら交流して、私たちも若い人の活動のよさを感じている。

そういう繋がりの中で人は育っていくのだと思う。コロナが落ち着いて突然いろいろな活動が始まり、まだ上手く動けない状態だが、高土にはその土壌があるような気がする。こういう時の交流を大事にしたいと思った。

【塚田委員】

何か機会を作らなければ駄目だと思った。

例えば地域全体でそういう機会を作ったとしても、どうしても役員を中心に話が進ん

でしまう。もう少し女性や若い人が前に出る機会を作る必要があると思った。

資料の構成要素を見ると、「高土ルミネの継続と発展」だけは具体的に想像できるが、ほかの4つは具体的にイメージできなかった。そこら辺をもう少し具体的なものに置き換えて提案してみたらどうか。

それから、自分の町内のことを言えば、集落の人の組織化が成り立っていない。今あるのは消防団だけのようにになっている。

町内に人選をお願いしますと言ってもなかなかできないので、少し強引かもしれないが、例えば40代から50代の人を指名するという一本釣りのやり方も考えられると思う。

【日向副会長】

地区の体育祭は私の町内でもかなり盛り上がり、種目に出場するメンバーの打ち合わせなどもある。次勝つと10連覇らしく、それに向けてもう既に気合いが入っている。

やはり世代が違くと普段はなかなか交流がない。最近は村作業も若い方が出てくるようになり、農地を守る会では、子どもたちを始め年配の方まで一緒にヒマワリを植えている。そういうイベントごとを立ち上げるというか、今あるイベントを利用して世代間交流し、いろんな知識を若い人に受け継いでもらうことが、今後必要だと思う。

【松山委員】

とても良い発言である。地区の体育大会に対する熱意というか、ほかの町内もすごく一生懸命だということが分かったので、これは地区が一つになるととても良いチャンスである。

【高橋副会長】

うちの町内も体育大会となると、子ども会・PTA・町内会・体育協会のそれぞれの役職の仲間が一堂に会して種目出場者の選抜を行う。そういう機会を上手く活用しなければいけないと思う。

また、顔見知りから顔なじみになる活動ということで、私自身もずっとやってきたが、原点はやはり声掛けである。声掛けで参加を募り、行事をするときには結果も皆さんに報告する。目を留めてくれた1名でも2名でもその活動に参加していただければ、今度はその人から上手く提案を引き出して、その人を中心に何か行事をしていく。その繰り返しだが、今後のリーダーの育成に結びついていくのではないかと考えている。

【田中委員】

コロナも若干収まったということで、今回の体育大会に向けて、今日久しぶりに40代

の人と話した。コロナ禍もあって、そういう機会がないと集落内でも会話の機会がなかった。今度は5月20日の運動会に向けていろんな方と話す機会が出てくるので、それをきっかけにして世代間交流していければよいと思う。

【樋口委員】

昔は嫁に行ったら婦人会に入って、お嫁さん同士の会話や、若い人からお年寄りまでの関わりがあった。昔は飯田町内でも青年団の活動が活発で、いろいろな地域の団体とも混ざり合って話し合っていた。体育大会もかなり盛大にやっていたので、そういう一大イベントみたいなものがあると良いと思う。

【上野委員】

昨日、5月20日の体育大会に向けて、振興協議会・各団体長・老人会・PTA・小学校長・先生等の25名で会議を行った。その中でPTA会長から、子どもたちと競技を一緒にやりたいという提案があり、それについて全員が賛同した。

それと、日向副会長から話があったように、第1区のチームは9連覇している。10連覇を阻止するのは若い人の力だと思う。自分の地区でも、若い人と一緒に頑張って準優勝した年があった。やはり若い人の力というのは絶大なものがあると思うので、若い人が活動する時は地域ぐるみで支援し、高士の良さと魅力を引き出すということが一番大事だと思う。この5月20日の体育大会をきっかけに、また別の行事ができればと思う。

若い人の旗振りを我々が支援しないで高士を活性化するなんてできないと思う。ぜひ5月20日の体育大会を成功させたい。

また、もし来年もやることになれば、地域独自の予算に提案したいと思っている。

【青木会長】

いただいた意見を基に、次回以降まとめていきたいと思う。

以上で次第2議題「(1) 協議事項」の「地域活性化の方向性について」を終了する。

次に次第2議題「(2) 自主的審議事項」の「旧高士スポーツ広場（旧高士中学校跡地）の活用策について」に入る。事務局から説明を求める。

【山崎主事】

・資料2-1・2-2に基づき説明

【青木会長】

今ほどの説明に質疑を求める。

(発言なし)

資料 2-2 のまとめ①から順に審議する。委員の意見を求める。

【松山委員】

芝生については、私は人工芝のイメージだった。高田の旧ソフトボール球場の芝生はどのように管理しているのか。

【小林所長】

高田城址公園の旧ソフトボール球場の芝生は自然芝であり、管理は市の都市整備課が行っている。

【上野委員】

以前のアンケート結果の中には「スポーツ」という言葉は出てきていない。「芝生があり地域住民が利用しやすい広場」というまとめだったと思うので、私個人の意見としては、「多目的に利用できる広場」とすればよいと思った。スポーツに限定してしまうとアンケートの結果にそぐわなくなってしまう。

【玄蕃委員】

基本に戻るが、このまとめ案①まで辿り着いたのはきちんと根拠があって、子どもや町内へのアンケート、町内会長や関係団体との話し合いもしてきた上で導き出した結果である。

だが、この意見書を書き上げていくときに、これが独り歩きしてしまわないかが私は心配である。

もちろん全員が賛成するわけではないが、意見書案が完成した後に町内会長と意見交換をして、また一から戻るようなことにならないか、そういう不安がある。

さらに、今度は誰が旗を振っていくのか。この先も地域協議会委員が先頭になっていくのか。そういう根本のところでも少し悩んでいた。

【青木会長】

事務局から説明願う。

【小林所長】

合意形成をどうすべきかという話だと思う。当然、一番の理想は高土区の全員の意見が一致することである。ただ、意見書というものは、地域協議会が意見をまとめて提出できるという、地域協議会の権利である。

そもそも皆さんは地区の代表として出てきているわけなので、皆さんの意見で意見書を取りまとめて出すことについては全く問題ない。つまり、必ずしも町内会や地域の住

民に諮る必要はない。

【青木会長】

私も最近この説明を聞いて納得した。町内会長との意見交換はもう少し早い時期が良いかもしれないが、そういう過程を取ることにについては了承いただけるか。

【松山委員】

意見書を出すのは我々なので、我々が判断すればよい話である。

それと、今回から芝生と植栽のほかに「植樹」という言葉が入っているが、これはどういうことか。

【小林所長】

皆さんの意見を吸い上げるに当たって、これまでの発言を整理したところ、「芝生広場」「花畑」「花見」という言葉が出ていたので、「芝生・植栽・植樹」とまとめた。ただし、すっきりさせる意味で「芝生・植栽」に絞ることもよいと思う。

【塚田委員】

私は「植樹」があった方がよいと思う。日影がなければ真夏はとても過ごせないので、日影ができるように木があった方がよい。

【松山委員】

具体的な配置の検討まで今日やらなければならないということか。

【青木会長】

必ずしも今日決めなくてもよい。

【小林所長】

今日できることころまででよい。

ただ、もう配置の話が出てきているということは、最初のまとめ案①の活用策についてはほぼ異論がないと捉えてよいか。まずはそこを確認していただきたい。

【青木会長】

おおむね異論はないと思う。ただし5月に現場確認をする予定もあるので、今決めなくてもよいのではないか。

【小林所長】

確かにここで文言まで決める必要はない。現場も見ながら今後修正もあり得るという余白を残したいということだと思う。ただ方向性としては意見が一致していると捉えて進めたいと思う。

【青木会長】

今ほどの提案について反対の委員はいるか。

(発言なし)

それでは全員賛成とする。

続いて事務局から説明願う。

【小林所長】

- ・資料 2-2 に基づきスケジュールについて説明

もう一つ大事な話がある。先ほど玄蕃委員から、具体的な管理をどうするかという話が出ていた。

本来意見書というものは、意見するだけのものであって、具体的な実施団体や管理の問題まで考える必要はない。ただ、せっかく出すのであれば、意見を伝えるだけではなく、やはり実現したいという気持ちがあると思う。

そのため、実際にどの団体が管理するのかというところまで話し合いが進めば、意見書とは別に団体で植栽することも可能だと思う。費用がかかるのであれば地域独自の予算を活用することも可能と考えている。

今日私がお伝えしたいことは、皆さんのこれまでの審議の結果として、意見書を必ず提出したいということだ。そのほかに、町内会長との話合いであったり、振興協議会との話合い、また地域の方との話合いの中で、実際にやってくれる団体が見つければ、彼らに託して植栽活動を進めるという二段構えを、今後は考えている。

【青木会長】

そうでないと何の意味もないような気がする。この意見書を出した後に、それを具体化してどのように進めるかということである。

【玄蕃委員】

今の所長の話聞いて思ったのは、このスケジュールはあくまでも意見書作成の手順であって、実際にはこの意見書とは別に地域との話合いや必要な予算の計算なども進めていくということか。

私は、自分たちだけで意見書を作って、自分たちだけで動いていくのではなくて、もっと地域の皆さんを巻き込みたいというか、地域の皆さんと一緒に話し合っていないとできないと思う。

今期の委員の任期はあと 1 年なので、それまでに何か具現化したいとなれば、意見書

を出すだけでも大変な作業だが、それと合わせて植栽も進めていきたいと思っている。ただ、時期的に今年は無理なのかもしれない。そういう認識でよいか。

【小林所長】

何も、皆さんの任期中に花が咲かなければ成果がないということではないと思う。皆さんの任期の中で、植栽活動の予算を取ったり、団体を見つけたり、管理の仕方を考えたりできれば、それはもう皆さんの成果であって、一つの具現化した形だと思う。そこまでの計画をするのが皆さんの実績になる。

具現化という話があったが、まさにそのとおりで、事務局としては皆さんがここまで話し合ってきた結果を何か残したいと考えている。その一つが意見書である。

高士ではこれまで10年間も意見書が出てきてない。我々が意見書を出すということだけでも、非常に大きな実績だと私は思うし、そのほかに植栽も実現するよう話し合いを進めていきたいと思う。植栽は2番目のチャンスとして目指していけたらよいと思っているので、その方向性について確認願う。

【青木会長】

私は当然そのように考えていた。ほかの委員はどうか。

【玄蕃委員】

例えばネットの設置や植栽であれば、今年のうちには何か始められないかという話は前にあった。今年のうちには何かしたかったので、少し混乱している。

【松山委員】

今の状態では、意見書を出して終わりである。具体的な配置を考え始めないと、また話が先送りになってしまう。

【塚田委員】

玄蕃委員の気持ちはすごく分かる。意見書を出すだけだと言いつ放しになってしまうので、やはりそれは並行して考えていかなければいけないと思う。

ただ私自身としては、任期のうちに具体的な結果が見えなくても、地域の皆さんとの話し合いができて道筋ができれば、私はそれでもよいと思う。

【上野委員】

では、まとめ案①がある程度決まったので、次にまとめ案②をきちんと決めて、次回まとめ案③を作るようにすれば、ある程度具体的なところまで見えてくると思う。今ほど玄蕃委員と塚田委員が言われたように、意見書を出しただけで終わらないように、町

内会長や各団体長と話し合っただけで進めていってはどうか。

【松山委員】

そうでないと前に進まない。

【青木会長】

そのように進めてよいか。

(よしの声)

ではそのように進めることとする。

【塚田委員】

地域独自の予算に変わったことが、我々にとっては打撃が大きかった。支援事業だったらもう少し具体的に何かできたのではという気もする。

【小林所長】

今の話は非常に重く受け止めた。地域独自の予算を活用しようと軽く言ってしまったが、前回の高土まつりの件もあるので、必ずしも約束はできない部分である。

ただ、チャレンジしなければ何も得ることはできないので、約束はできないが、方向としてはこのように進めたいと思っている。

【青木会長】

具体的な配置については、5月の現場確認を踏まえて検討していきたいと思う。

【松山委員】

先進地視察とはどこに行くのか。

【小林所長】

今想定しているのは、以前も紹介した牧区の宮口古墳の植栽活動である。そのほか市内で同じように植栽活動をしている場所があれば教えていただきたい。

【松山委員】

私のイメージは先ほど言ったように高田の旧ソフトボール球場である。全体が芝生で周りに花壇が少しあるようなイメージである。

【小林所長】

配置を考えることにしたのも、各委員のイメージが拡散しているからである。意見書として提案する以上、もう少し具体化させたいということで始めた作業である。

松山委員のイメージはよく分かったが、ほかの委員はどんなイメージなのか。それを皆さんで話し合っただけで決めなければいけない。だから皆さんからも同じように考えていた

だき、今日はグループワークをしようと思っていた。

だが本日は時間が無くなってしまったので、各自次回までに考えて来ていただきたい。
次回、現場を見た後に意見交換をして一つにまとめてはどうかと思っている。

【青木会長】

そういうことで、配置の検討は次回までに各自考えてきていただきたい。

以上で次第2 議題「(2) 自主的審議事項」の「旧高士スポーツ広場（旧高士中学校跡地）の活用策について」を終了する。

次に次第3「その他」の「(1) 次回開催日の確認等」に入る。

— 日程調整 —

- ・ 次回の協議会：5月18日（木） 午後6時30分から 高士地区公民館 大会議室
- ・ 内容：自主的審議事項

開会前にスポーツ広場の現場確認を行うので、午後6時に現地集合願う。

その他、何かあるか。

【日向副会長】

- ・ 閉会の挨拶

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。